

昭和33年12月25日 第3種郵便物認可
平成28年4月1日発行
KENCHIKU SHIZUOKA

建築静岡

Kenchiku Shizuoka

春号

2016 Spring / No.656



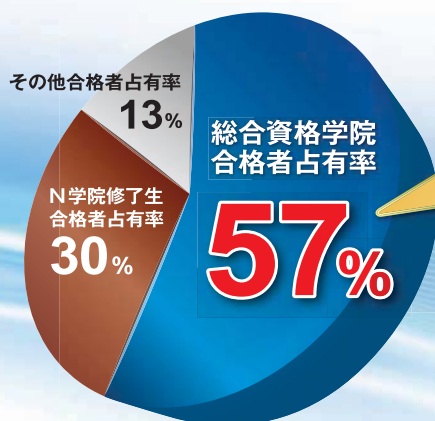
特集 ■ヴォーリズと静岡県



公益社団法人静岡県建築士会
Shizuoka Association of Architects & Building Engineers
<http://www.shizu-shikai.com>

平成27年度

1級建築士 全国最終合格者占有率



総合資格学院

圧倒的な差をつけ

平成27年度も合格実績

全国最終合格者3,774名中／総合資格学院合格者2,149名

合格者占有率

No.1

平成27年度 1級建築士試験
全国最終合格者内訳

総合資格学院合格者※1 **2,149名 占有率57%**
N学院修了生合格者※2 **1,145名 占有率30%**
その他合格者 **480名 占有率13%**

◎表記の合格者占有率は小数点第一位を四捨五入しています。 ※1)総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。上記、占有率および合格者数はすべて平成27年12月17日に判明したものです。今後新たに合格者が判明次第、数値は変更してまいります。当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※2)平成27年12月17日時点、HP公表データに基づく (<http://www.ksknet.co.jp/nikken/index.aspx>)

全国
ストレート合格者占有率
No.1

平成27年度 1級建築士 設計製図試験

全国
ストレート合格者占有率 **60.5%**

【平成27年度 学科+設計製図】全国ストレート合格者合計1,594名中
当学院現役受講生965名 < 平成27年12月17日 現在 >

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。
※ストレート合格者とは、平成27年度建築士学科試験に合格し、平成27年度建築士設計製図試験にストレート合格した方です。

平成27年度 2級建築士 設計製図試験

全国
ストレート合格者占有率 **40.2%**

【平成27年度 学科+設計製図】全国ストレート合格者合計3,322名中
当学院現役受講生1,335名 < 平成27年12月3日 現在 >

平成28年度

目標

合格者占有率

平成28年度もより多くの合格者を輩出できるよう、スタッフ一丸となってサポートします！

1級建築士試験
ストレート合格者占有率
(学科+製図)

95% **90%**
最低ライン80%以上
都道府県単位で100%を目指す

2級建築士試験
ストレート合格者占有率
(学科+製図)
70% **60%**

より上位の技術者へ！

実務に従事される方が、自らの知識と経験を第三者に証明するために最も有効な方法は、専門性の高い、より上位の資格取得です。設備に関する熟練者としての建築設備士、設備設計1級建築士、構造に関する専門家としての構造設計1級建築士。資格取得は更なる躍進への絶好機です。

1級建築士
合格実績 **No.1** 指導校の
平成28年度試験対策
上位資格対策講座!!

強化 構造設計
1級建築士対策講座

強化 設備設計
1級建築士対策講座

新規講座順次開講!

NEW 建築設備士

ライブ
講義 or DVD
講義 or e-講義



技術者育成をお考えの建設事業主の皆様へ

建設労働者
確保育成
助成金

1人あたり上限20万円
受講料の **8割** を助成

当学院の助成金対象講座

1級土木施工管理 学科講座/実地講座
2級建築施工管理 総合講座 1級建築施工管理 学科講座/実地講座

※助成金や対象講座など、詳しくは当学院までお気軽にお問い合わせください。



総合資格学院

紹介 キャンペーン

5千円 or 1万円の現金
プレゼント!
詳しくは当学院スタッフに
お問い合わせください

おかげさまで平成27年も
「1級建築士合格者数日本一」を
達成いたしました。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院
学院長
斎藤 司



静岡校 TEL:054-275-3311

沼津校 TEL:055-930-2621

浜松校 TEL:053-456-2211

総合資格

検索

Facebook 「総合資格 fb」で検索!

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター

Contents

1 目次

■特集1 ヴォーリスと静岡県

- 2 ヴォーリスと静岡県 静岡建築遺産楽会
- 3 ヴォーリスと静岡県
- 4 日本福音ルーテル栄光教会焼津礼拝堂
中部ブロック 星野浩二
- 5 YMCA東山荘フィッシャー館
東部ブロック 長尾隆行

■連載

- 6 しずおか木造塾（第1～3講座）
しずおか木造塾委員会 清水利至、山下晋一、早津和之

■コラム

- 8 コーヒーブレイク 少年野球「中部ブロック」
50歳を過ぎてからのチャレンジ「中部ブロック」

■シリーズ

- 9 ハイブリット社会を生きる
住宅資産研究所 倉田剛



■シリーズ

- 10 まちづくり地域貢献通信
まちづくり委員会 伊藤哲郎

■活動報告

- 11 青年委員会西部ブロック
西部ブロック青年企画委員長 渥美嘉彦
- 12 青年委員会 東海ブロック大会
静岡県修善寺大会実行委員長 小倉博文

■シリーズ

- 14 景観整備機構【瓦版】 第74回
静岡県ヘリテージセンター長 塩見 寛（沼津地区）

■技術レポート

- 15 軽量で柔らかい、安全で快適膜天井
太陽工業株式会社

■お知らせ、編集後記

- 16 事務局からのお知らせ、入退会者
編集後記・ご意見募集

■表紙／三島スカイウォーク

2015年12月に富士山を望む事が出来る、三島市箱根山西麓にオープンしました。

三島には、富士山や駿河湾、伊豆の山並みなど誇れる景色がいっぱい。

全長400mの三島スカイウォークでは、さまざまな角度からワイドなロケーションが楽しめます。

伊豆と箱根を景観美で繋ぐ架け橋をゆっくり、たっぷり楽しめます。

全長/400m 高さ/70.6m 歩道幅/1.6m 主塔の全高/44m

※歩行者専用吊り橋としては日本一の長さ。

※車椅子同士がすれ違う事が出来る幅に設計

地盤調査からコンクリート杭・PC基礎の
製造・施工まで対応

目立たない安心を お届けします

詳しくは、ホームページで▶

野村商店



www.nomuragroup.com



NOMURA
group

株式会社
野村商店

基礎事業部	TEL.054-284-3461
伊東営業所	TEL.0557-45-2245
伊豆南営業所	TEL.0558-22-3655
熱海営業所	TEL.0557-82-1244
伊豆中央営業所	TEL.0558-76-3114
東部営業所	TEL.0550-83-1306
沼津営業所	TEL.055-941-7020
静岡営業所	TEL.054-284-3461
浜松営業所	TEL.053-422-3636

●ヴォーリスと静岡県

ウィリアム・メレル・ヴォーリスは1880年（明治13年）にアメリカ合衆国カンザス州に生まれ、1904年にコロラド大学を卒業（哲学士）、1905年に英語教師として近江八幡に来日しました。1941年に帰化し、1964年（昭和39年、享年83歳）に亡くなるまで人との出会いと信頼関係を基盤にして宗教、教育、建築、薬品製造販売、病院経営、音楽活動等の様々な分野で偉大な業績を上げています。建築学の専門教育を受けていませんが、この多面性は教会、宗教団体建築、学校、住宅、商業施設等の多様な建築を創造した主要な源泉であり同時に魅力と理解されます。最盛期には日本を中心にアジアに1,000棟以上が存在したと言われています。転換期にあって時代の扉を開いたヴォーリスの足跡を辿り、業績を検証してみることは混迷が深まる現代社会を生きる私たちにとって日常と文化の伝播を考える絶好の機会となることでしょう。



本会は昨年度の活動の一環として県内にかつて存在したヴォーリス建築の調査研究を行いました。それによれば全28棟のうち現存が確認できたものは5棟（17.9%）であり、内訳は教会が9件（32.1%）と最も多いと判明しました。静岡県とヴォーリスの関係を考察する際に注目すべきひとつの仮説として「静岡バンド」の存在があります。明治維新に際して静岡に移動した旧幕臣の中にキリスト教に入信し活動を共にする人々がいました。彼等は洋学を修め、近隣の人々と交流を重ねながら明治新政府の東京に対抗した静岡独自の文化を創造していきました。その後、他の社会的な潮流と相まって清新な風潮が形成され、近代建築が開花する「黄金の1930年代」となります。この人的な繋がりがひとつの要素となり県内にヴォーリス建築が次々と建設されたと理解されます。

●旧マッケンジー住宅について

静岡県内のヴォーリス建築で最も知られているのは、旧マッケンジー住宅です。静岡市の海岸沿いに現存する、木造2階建てのスパニッシュスタイル、朱い瓦の白亜の洋館です。

大正中期から昭和中期に掛けてお茶の輸入業者として活躍したアメリカ人、ダンカン・マッケンジー氏とエミリー夫人の居宅として1940年（昭和15年）に建設されました。ぜんそくの持病があった氏が健康に良いこの地を希望したと言われています。

マッケンジー氏亡きあと、エミリー夫人はこの地で乳児院や幼稚園を経営して、福祉の向上に努めました。その後、エミリー夫人は静岡市名誉市民第1号となっています。1972年（昭和47年）に居宅は市に寄贈され、1997年（平成9年）に国登録有形文化財となっています。



鉄筋コンクリートの基礎の上に立てられ、建物全体が周囲よりも高くなるように設計されています。4段ほどの階段を上がると、大きな玄関扉が来るものを迎えます。廊下や階段、どの部屋も広い間取りになっています。南向きの居間からは庭の芝生の向こうに駿河湾を望み、波の音が聞こえてきます。食堂は西向きに構えられ、円形に配置された窓からは、陽の光が十分に差し込むように設計されています。2階からさらに階段を上がっていくと、天体観測用と望楼があります。建設当時は藁葺き屋根が点在する村落であったと思われ、この望楼から富士山と松原の風景が美しく見えたことでしょう。

太平洋を望む広大な庭には本邸を称する「HOMAM（ホマム、勇者の幸福の星の意）」の碑と東屋、そして茶会を開いた藤の園があります。

現在は静岡市の管理になっていて、主に顕彰事業として講演会、音楽会等に利用されています。年末年始、月曜日と祝日を除く日は無料で一般見学も可能となっております。

●旧英和女学院宣教師館について

次に旧英和女学院宣教師館をご紹介します。ヴォーリズが静岡英和女学院に最初に関わったのは、1924年（大正13年）の校舎建設のための設計からです。光と影のきらめく白いモルタルの壁に赤い屋根、スパニッシュ様式の壁の紋章、セントポーリアの飾り鉄柵、深い陰りを落とすポーチ、窓、アーチの正面玄関……。もしこの校舎が1945年（昭和20年）6月19日の静岡大空襲で火焰に包まれることなく現存していたら、静岡の建築史に残る貴重な文化財となっていたことでしょう。

そして1950年（昭和25年）、外国人教師のための寄宿舎が建てられます。これが、『旧英和女学院宣教師館』です。建築様式はヴォーリズが得意とするスパニッシュですが、彼の作品には珍しく窓を引き違いにするなど、少し和風が取り入れられ穏やかな雰囲気を醸し出しています。

ヴォーリズの設計による建物は、戦後期の建物は比較的少なく、この建物はヴォーリズの戦後期住宅の特色を持つものとして貴重です。塀は煉瓦を多用し、風格のある玄関ポーチの床にも煉瓦が使われています。従来のサンルームはありませんが、南面に配した居室は壁面全体に開口を設け光と風を最大限取り込みながら全体がサンルームのようになっています。そして木製ガラス建具を入れたことが外観における大きな特色ともなっています。また、煙突を東西両壁面に配置したところや軒線を水平に廻し水平な軒裏天井としていることなども特色と言えます。間取りでは南に台所を配置し大きな窓と食卓コーナーを設け現在のダイニングキッチンが発想を見出すことができます。

建築から65年が経ち、建物が傷みその存続が危ぶまれましたが「西草深の洋館を守る会」のご尽力により、古い塩焼和瓦を活かしながら葺き替え、内部の修復もいたしました。

現在は、「西草深の洋館を守る会」のご支援のなか、この会の主旨に賛同した卒業生夫妻が「暮らしながら保存」をテーマにこの洋館に住み、この館の魅力を感じながら、予約制レストラン運営やイベントの企画を用意して、その保存維持にあたっております。

また、その歴史的価値が認められ、2015年11月には国指定登録有形文化財に答申されました。

※本稿では「旧英和女学院宣教師館」という一般名称を用いたが、

「旧静岡英和女学院院長住宅（旧静岡英和女学院女性宣教師共同宿泊施設）」という名称で登録有形文化財登録されている。



●静岡建築遺産学会について

静岡建築遺産学会で、「感謝して前進」「仲良く楽しく」をモットーにヴォーリズ建築を中心に古き良き建物とまちのあり方を調査研究しています。

2011年12月、建築士会の有志で、ヴォーリズ建築の視察に近江八幡へ赴きました、そこで、廃墟になっていたヴォーリズ建築、旧八幡郵便局を修復し保存活動している「一粒の会」の副会長、石井和浩氏の説明を受けました。石井氏はヴォーリズ建築とその人物像に詳しく、熱気あふれる語り口に私たちは引き込まれました。また、この話をより多くの方に聞いてもらいたいという思いを持ちました。

2013年10月、静岡県建築士会中部ブロックまちづくり委員会による市民講座「ヴォーリズ建築の魅力と保存再生活動」が、旧マッケンジー住宅において開催されました。石井和浩氏を静岡までお招きし、ご講演いただいたのです。その講演会には静岡県内だけではなく関東や名古屋方面からも多くの方にお越しいただき、ヴォーリズさんの人気の高さを実感しました。静岡市出身の神谷悠美さん、指原豊さん作成のパネルを展示した「ヴォーリズさんの設計室展」も同時に開催され、こちらも盛況でした。

翌2014年、この市民講座を通して知り合ったメンバーが、ヴォーリズ没後50年を迎えるに当たって、静岡県内におけるヴォーリズ建築について調査しようということで、静岡建築遺産学会が発足しました。

まずは、近江八幡にある株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所の図書保管場所に出向き、原図を見せていただきました。そして、メンバーで手分けをして、それらの確認作業をしていきました。その結果、御殿場のYMCA東山荘フィッシャー館、焼津ルーテル教会が現存すると、確認されました。

昨年6月には、「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」の第9回全国大会が静岡で開催され、当会も主催者側として協力させていただきました。この大会では日本全国のヴォーリズに関する活動を行っている団体が一堂に静岡に集まり、その場でも静岡建築遺産学会の活動内容を発表させて頂くことができました。発足して間もない団体でしたが、その大会が成功したことはとても喜ばしいことでした。

暮れも押し迫った、昨年12月27日、とてもショッキングな知らせが届きます。私たちをヴォーリズ建築の虜にさせた張本人、石井和浩氏の訃報です。亡くなる3週間ほど前には、近江八幡に現存するヴォーリズ建築「パーミリー邸」を購入したばかりで、修復しながら、みなに開放していく事を楽しみにしていた矢先の事でした。本当に残念なことです。

石井和浩氏の遺志を胸に刻み、これからも静岡建築遺産学会は活動を続けていきます。静岡県内のヴォーリズ建築についても、未知のことが多いです。これらの調査の他、各団体との連携、ゆくゆくはこのような古い時代の建物を生かしたまちづくりに発展させて行けたらと望んでいます。ご興味のある方はご一報ください。

連絡先 ☎420-0833

静岡市葵区東鷹匠町 4-12 八幡物産（株）内

静岡建築遺産学会 会長 石上 電話 054-245-8761

日本福音ルーテル栄光教会焼津礼拝堂



焼津東小学校すぐ裏側の閑静な住宅街に、白い塗り壁と赤いスパニッシュ瓦、緑青銅板葺きの三角棟屋の十字架が印象的な「日本福音ルーテル栄光教会焼津礼拝堂」はある。

建物脇にある御影石の銘板には「A. D. 1954」と刻まれており、この建物が1954年の竣工であることが分かる。毎日新聞記事（2015年2月28日夕刊）によると、つい最近まで設計者は不詳であったが、「静岡建築遺産楽会」がヴォーリス創設の「一粒社ヴォーリス建築事務所」（大阪市北区）から静岡県内に関する資料の提供を受け、この礼拝堂の設計図を発見し、設計が米国人ウィリアム・メレル・ヴォーリスであることが判明した。1954年といえば、米国がビキニ環礁で行った水爆実験でマグロ漁船「第五福竜丸」が被ばくした年にあたる。奇しくも同年にその焼津に竣工したこの礼拝堂は、62年の間、ビキニ事件の記憶とともに時を重ねた遺構であり、反核・反米感情の歴史を見続けた象徴とも言える建物かもしれない。

2月13日土曜の午後、出迎えていただいたのは栄光教会主任牧師の内藤文子さん、突然の訪問にもかかわらず取材を快諾いただいた。普段は藤枝の礼拝堂にお住まいで、毎日曜の朝、礼拝のため焼津に来られている。たまたまその日は「バレンタインこども礼拝」があり、礼拝とともに子供達とチョコレートを作る企画で、幼児からお年寄りの方まで約20人が集まった。子供向けのイベントとしては、他に「母の日企画」や「クリスマス企画」などもあるそうだ。

午後2時過ぎに礼拝は始まり、私は席の最後列右側に座った。私自身クリスチャンではないので、友人の結婚式や旅先での体験、あるいはテレビ・映画の一場面の記憶はあるが、このように礼拝に参列するのは初

めてである。讃美歌が始まり、オルガンの音色が幻想的な雰囲気醸し出し、歌声が清らかに広がる。そしてお祈りがあり、牧師さんの講話と続く。今日のお話はバレンタインデーにちなみ、269年の2月14日にローマ皇帝の迫害下で殉教した聖ヴァレンティヌスのエピソードである。紙芝居を使いながら子供に語りかける表情や仕草は、牧師の温情な人柄が読み取れる。礼拝後には参加者有志による演奏会も行われた。

礼拝堂は間口8m×奥行き15mくらいであろうか、吹き抜けもなく、収容人員は最大30人くらいの地域の集会場程度の大きさである。祭壇には木製の十字架が、内装はダークブラウンのオイルで良く磨かれた木材を床、腰壁、額縁、木建、長椅子などに使用されており、壁は白壁、窓はアルミサッシであるが欄間から入る明りがとても明るい。ヴォーリス建築の特徴である光と風を優しく取り入れた設計思想が見て取れる。

今回は、牧師を始め、皆様の心温かいお迎え、おもてなしにより、良い取材が出来たと思う。「静岡建築遺産楽会」の石上会長は新聞記事の中で、「ビキニ事件の記憶とともに礼拝堂も末永く後世に伝える必要がある。」と、この建物の保存を呼び掛けている。昨今は、国際社会の懸念を無視し行われた北朝鮮による水爆実験、弾道ミサイル発射実験や、中東不安に伴う世界的テロの増加など、世界情勢の混乱が続いている。「日本福音ルーテル栄光教会焼津礼拝堂」は、平和の象徴として、焼津のシンボルとして、今後も皆さんに愛される教会として、保存・活用されることを期待する。

（静岡県建築士会 中部ブロック 星野浩二）



YMCA東山荘 フィッシャー館



御殿場市の東側、箱根山外輪山麓の自然豊かで閑静な別荘地域に、赤い屋根と焦げ茶の下見貼りが印象的な「YMCA東山荘 フィッシャー館」がありました。

フィッシャーとは、このYMCA東山荘の建設（1915年（大正4年））にあたり、広岡浅子（NHK連続テレビ小説「あさが来た」のヒロイン白岡あさ子役のモデル）と共に尽力された方です。

正式姓名：Fiser・Galen・M

1873年アメリカ カルフォルニア州オークランド生まれ。日本YMCA同盟名誉主事。1898年～1919年（大正8年）の21年間在任した。

1912年当時、YMCAでは涼しい所に恒久的な研修施設を建設する考えがありました。フィッシャーは「静かで富士山の景観が素晴らしい場所」ということで、日本YMCA同盟総会において、御殿場の「夏期学校常設館建築の計画」を提出しました。そして、約3年の工期を経てYMCA東山荘は完成したのです。

その後、1950年（昭和25年）フィッシャーが亡くなられた夫人の記念の為に「聖書研究室」として500ドルの寄付を具体化して建てられたフィッシャー館は、フィッシャー氏になぞらえて「芙一舎」（フィッシャ）と呼ばれて親しまれました。

建物の設計は、広岡浅子の娘：亀子の婿（広岡恵三）の妹（一柳満喜子）の夫で、近江八幡市に近江兄弟社（メンソレータムで有名な医薬品メーカー）を設立した、ウィリアム・メリル・ヴォーリズ氏（建築家でキリスト教宣教師）が手がけました。

まずは、外観から観て行きましょう。長野県軽井沢に現存する「旧ヴォーリズ山荘」（現：浮田邸）通称九尺二間を連想させる二連の寄棟屋根になっています。軒高は、フィッシャー館の方が背の高い印象を受けます。外壁も同じく下見貼りですが、押さえが無い分スッ

キリとした印象が強いです。また、日当たりが良く、直接山も背負っていないことから、通風も良く比較的ドライな環境で、保存状態が良いように見えました。掃き出し窓の前には石畳のテラスがあり、午後のティータイムはここで富士山を眺めながら、心地よい時間を過ごすことが出来たのかなと想像できます。

ガラス入りの木製玄関ドアを内開きで入ると、ヴォーリズらしい幅広の廊下を介して、左に洋室、左奥に和室（旧茶室）右側には和室二間の間取りになっています。向かって右側二間はリフォームされていて、左側の棟の方が竣工当時の雰囲気を残しているようでした。

一番雰囲気が良いのが玄関左の洋室で、天井高も2580と高めで、ヴォーリズ自邸（現記念館）の暖炉をコピーしたであろう端正な暖炉を中心に構成されていました。暖炉をセンターに左右には、聖書研究室らしく本棚がびっしり造作でつくられていて、暖炉上の棚は重厚で複雑な面取り加工が施されていました。暖炉前のモザイクタイルの色が一枚一枚違うことで、空間が単調にならず、広がりがありながらも気持ちの落ち着ける場所でした。

今回の取材で、このフィッシャー館は、ヴォーリズ晩年の設計（1964年永眠）ながら、初期のスタイル：北米のコロニアルスタイル、コテージスタイルを色濃く残した貴重な建物で在る事が分かりました。

中期のスパニッシュ、ミッションスタイルの「旧マッケンジー邸」「旧英和女学院宣教師館」、後期の「日本福音ルーテル栄光教会焼津礼拝堂」「YMCA東山荘フィッシャー館」が静岡に現存している事を誇りに思いつつ、今後も後世に保存していかなければと強く感じました。

取材に快く対応頂いた東山荘の参与：大和田様。文献を貸して頂いたNPO法人土に還る木森づくりの会：小松様、ご協力有難うございました。

（静岡県建築士会 東部ブロック 長尾隆行）



16年目となる木造塾が、平成27年10月に静岡市内で延べ6講義、89名が受講した。初めて受講された方が約3割を超えていた。

第1講座は、14年間連続して御講演をお願いしている「構造家の山辺豊彦氏の木構造計画」で、お話されたいくつかのポイントをあげると、

(1) 構造設計は「力の流れを読むことがすべての基本」で、「伏図と軸組図を描くこと」は、必須事項でシングル線でもかまわない。

(2) 壁倍率と構面距離の関係

壁倍率が高く、構面間距離が離れている場合、床倍率を高くする。逆に、壁倍率が低い場合、壁が多くなるので、小幅板（床倍率が低い）、接合部倍率も低いものにできる。

(3) 床面の先行破壊を防止するため、壁面のどこかで壊すことを考える。

(4) 梁の“許容たわみ”を自分で決めて、梁の断面サイズを決定する。クリープ現象に注意。

(5) 構造計画

定尺材を用いた民家型構法（柱通しの軸組）や、梁通しの軸組（床剛性が低く、壁倍率2以下の壁を入れる）、上記ミックスの構造は場当たりなのでやめる。

(6) 鉛直荷重は梁から仕口から柱に伝わり、地震力の水平力は床を意識する。小幅板や構造用合板にする場合、壁の仕様に注意する。

（事例） 韮崎保育園

（地場ヒノキの接着重ね梁や壁柱）

主要な仕口や継手は実大実験で構造性能を確認してから建設を行った。

第2講座は設計と工務店の今後についてのお話です。

「建築家・半田雅俊の設計作法」

作品をつくるのではなく、普及型の高性能住宅をつくりたい。作りこみすぎた家は、改修しにくく、住まい方の変化、家族構成の変化、社会的状況の変化により壊さざるを得なくなっている。

そこで「木骨軸組構法」すなわち「スケルトン&インフィル方式のシステム住宅」で、長寿命で高性能な住宅を無理のない価格でつくろうという提案型住宅を示した。

「木骨軸組構法」の場合、家の大きさは、敷地、居住者数、予算でおおよそ決まり、それはお客様の希望は聞かなくて決まる。プランは共通でも外部を重要視している。窓から何が見えるのか、どのような庭の配置が家の中に風を運んでくれるのか、周辺環境を読み解いて個別に計画する。

緑化計画を先に考えてから居室をつくるようにして、内部より外部を考えることに時間をかけるほうが長持ちする家になると考える。

健康のために「寒さの感覚」としての断熱が重要である。低価格化を目指すには、主になる構造をシンプルにし大工手間を減らす。物を動かす時間を減らすなど、段取りが肝心である。外部パーツで表情のバリエーションを増やしている。

「木骨軸組構法」の基本的な考え方として、住宅は常に更新するものとして新築する。それによって長く使うことができるようになる。

「工務店経営とオンリーワンの家づくり」

と題して埼玉・小林建設の小林伸吾氏から講演してもらった。“地元の木を使う、梁を見せる、木組みの家”がわが社の家で、OMソー

ラーや木造ドミノも採用していて、“木^{すみか}の栖”と愛称をつけて、地域に必要とされる工務店を目指している。

家づくりの特徴は、営業マンがいないが、見学会やイベントを数多く開催して、自社設計にこだわり、いい家を実現する職人の力、現場監督の力を大切に考えている。

また営業地域を限定し、何でもやらない、棟数も追わないという方針で、定期的にイベントを開催し、住まい手との接触回数が多いことが大切である。

設計営業という体制をとり、女性を企画職へ採用し、イベントの企画・運営、情報発信している。イベントなどでは社員全員が説明する機会を持ち、説明できる知識を持ち、工務店としての設計力を蓄積することと一貫した流れで顧客対応をしている。

「地域材 自然素材 省エネ 広がり感 自然エネルギー」をキーワードにOMソーラーやパッシブデザインを取り入れている。

現場監督が主役となる“アーキテクトビルダー”というスタイルを目指し、地域ビルダーとして生き残っていくために、このようなことをして営業を不要にすることが重要である。

今後はハウスメーカーとは異なる、地域の工務店としては、パッシブハウスという武器しかないと考え、住むことが「うれしい、楽しい、大好き」と感じられる家づくりを提示していくことが重要で、今後も長続きする工務店を目指している。

第3講座は、建築家・竹原義二さんと住宅技術評論家の南雄三さんのコラボ。

ベテランのお二人は初めての顔合わせで、南先生がいつになく汗だくで、自前の今後の住宅論を展開した。

「建築家・竹原義二の設計作法」

開口一番『建築は場を読み解くことから始める』TOTO通信の新春号に掲載された“緑町の家”を中心に「和」の建築について語った。

150又は180mmのモジュールで断面を考え、平面は正方形を基本とする。

空気の流れを考え、経年変化を読み、デザインは隠す。^{あたた}温か味のある空間をつくるなど、キーワードを解説してもらった。

住宅技術評論家の南雄三氏は、「資産価値のある住宅“長期高価値住宅”を提案」

家づくりは、断熱をして部屋の温度を何度に設定すればいいのかと、各自考えるべきと問題提起された。

大手プレハブメーカーは商品の90%はゼロエネルギー住宅に取り組むと省エネの方向性について説明。

次に、「長期高価値住宅」を掲げ、資産価値を落とさないデザイン、工法や建材の標準化、地場産業の循環（職人と流通業界が繋がった地域住宅工房）、中古になっても流通し、住み替えも可能、高性能な住宅をつくることが今後の家づくりと提案する。

現在、埼玉県飯能市で建設中の“MEP”を紹介があり、8畳グリッドで構成し、縁側でつなぎ、そして今回は出窓も採用して、パッシブデザインとする。1階は冬に日中20℃に、夏は涼しくなるように考える。

通風計画として、出窓はウインドキャッチャー、上方一面解放熱対流型換気を採用。留守でも通風可能になる。

懇親会には毎回約40名が参加し講師を交え熱い議論が続いた。



初対面の大御所（竹原義二氏と南雄三氏）

少年野球

中部ブロック/ヤママサ

昨年の秋から、小学校4年の長男が野球を始めました。理由を聞くと「高校野球の甲子園大会をテレビで観てやりたくなった」と言いました。

自分は野球好きだが遊び程度だったので、正直びっくりしました。私の父親は野球好きだったので、自分や弟に野球をやらせたがりました。だから私は子供には好きなものをやらせてあげたいと思っていたので、嫁さんに本気かどうかを何度も確認させましたが、どうしてもやりたいというのでまずは練習体験から参加させることにしました。

長男が入りたいという地元の少年野球チームは、自分が子供のころからあるチームで、現在は自分の同級生や先輩後輩、消防団仲間の方達が、監督・コーチとなって指導してくれています。親同士会うとなんか同窓会？と思ってしまうほど懐かしく、恥ずかしくもありました。長男は自分と少しだけキャッチボールをした程度なので上手くはありませんが、コーチ達が優しく教えてくれて、何よりも野球を楽しんでやらせてくれるので、安心して行かせました。そして練習に参加するようになって、3週間くらい経ったところに長男がしょんぼりするようになり、どうしたのだらうと思い聞いてみると、「自分だけみんなと違う恰好をしていて嫌だ」と言いました。まだ、体験中だったので練習着やユニフォームも着ていなくジャージ姿で参加させていました。本気で野球をやりたいのか？と聞くと「みんなと一緒に野球をやりたい」とはっきり言ったので、入部することにしました。早速、練習着とユニフォームも揃え、着ていく嬉しそうな姿をみると、なんか頼もしくみえてきました。

しかしそれからが大変でした。練習は月・水・土・日曜日の週4回あるので、その送り迎えだけでも大変です。自分は仕事でほとんど行けないため、嫁さんの負担がさらに増えました。また試合やイベント等もあり、親への負担も大きく予想していた通りに大変でした。しかし子供たちの笑顔を見ると嬉しく思い、頑張っただけで応援してあげなければと今では一緒に楽しんでおります。このチームは子供たちに野球を楽しませるだけでなく、挨拶・礼儀・そして支えてくれる人に感謝も教えてくれるので、長男にとっても良い環境になっています。下手でもいいので、6年生まで続けてくれれば良いなと思い成長を願っております。最近は自分も時々手伝いに行くようになり、自分もチームの帽子がそろそろ欲しくなってきた今日この頃です。さあ、体も鍛えてがんばってこう！

50歳を過ぎてからのチャレンジ

中部ロック/サラリーマン建築士

この度、『省エネ大賞』に事務所ビルでエントリーし、とても貴重な体験をしたので紹介しようと思う。省エネ大賞といえば、エアコン、冷蔵庫を始めとする工業製品が中心であり事務所ビルという珍しいカテゴリーでの申請であった。

まず、昨年6月に1次審査である書類審査に応募した。新築時に設計監理をご担当いただいた設計事務所にご参加いただくことで第3者の知見が加わり、信用度・グレード感が高まると考え、設計事務所との共同申請を選択した。性能実績・省エネ技術を記載する申請書の作成にはかなりの労力を要したが、何とか一次審査を通過した。

2次審査は、10月に行われ、中日本地区の一次審査通過者17社による発表大会であった。17社の内訳はパナソニック、東芝、三菱、トヨタ、デンソー等国内トップメーカーが大半を占め、地方企業は当社だけという状況であった。発表会場は名古屋の大きなホールで、発表会当日は一般聴講者で埋め尽くされていた。最前列には審査員（大学教授、工学博士、研究者）15名がずらりと並び、発表会はビリーブリと張り詰めた雰囲気の中で始まった。メーカーの発表者はさすがにプレゼン慣れしており、スライドの作りこみも見事であった。ただ、持ち時間15分の発表の後の審査員の質疑はとても厳しく、ほとんどの発表者はタジタジであった。あまりの緊張で途中から他の発表者の発表を聞くのを止めた。休日返上でプレゼンの練習を繰り返した事を思い出し、気持ちを切り替え、自信を持って発表に臨んだ。何とか、発表を乗り切り、厳しい質疑にも対応することができた。その結果、3次審査に進むことができた。

3次審査は現地審査であり、11月に行われ、審査員は東京電機大学の名誉教授、省エネルギーセンターの常務理事（工学博士）であった。審査冒頭、私が説明を開始しようとしたところ、「説明はいらない。全ての資料に目を通し、内容は熟知してきているから、こちらの質問にだけ答えてほしい。時間がないんだ」と遮られ、いきなり出鼻をくじかれた。そこからは辛らつな質疑が容赦なく浴びせられ、それに丁寧に一つ一つ物証を上げながら答えていった。設計事務所からは最新の省エネルギー技術全般を含め、公平な立場で説明をいただいた。審査員は建物のすみずみまで見学し、省エネルギーシステムの細部に至るところまで熱のこもった質疑が繰り返された。気がつけば、当初予定していた1時間半の審査時間を大幅に超過し、3時間が経過していた。辛らつな発言から始まった審査も、終了時には、「中規模ビルで省エネルギーを目指すには模範的な建物であり、予定されている省エネ法改正に向けて、このような建物を増やしていきたい」と審査員の言葉で締めくくられた。

結果発表は、年が明けて2月である。末等の賞でいいから何かしら受賞できればと思っていた矢先、結果は最高ランクの「経済産業大臣賞」であった。応募総数153件、受賞団体は50社、そのうち経済産業大臣賞は8社という非常に狭き門であった。授賞式後、審査員と談笑する機会があり、審査が厳しい理由について説明を求めると、「省エネ大賞受賞という宣伝文句で消費者が製品を購入し、省エネ性能に疑問があると省エネルギーセンターにクレームが入る。だからどうしても厳しい審査になってしまう。」とのことだった。長期間にわたる準備と、厳しい審査には本当に苦労したが、貴重な体験ができたと思った。チャレンジしてよかった！

設計打合せ等に最適！ 建築関係者は半額料金！

■静岡駅前 葵タワー
■20席 (32㎡)

貸会議室

火曜日～土曜日	一般の方	建築関係者
午前 9:00～12:00	4,000円	2,000円
午後 13:00～17:00	6,000円	3,000円
終日 9:00～17:00	10,000円	5,000円

設備 プロジェクター (1,000円/1回)
TVモニター (500円/1回)



建築事業者も利用可能な建築住宅の相談窓口

■空室確認・予約■

あんしん建物相談室 "ミーナ葵"

☎ 054-251-8011

火曜日～土曜日 10:00～18:00

静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー7階

<http://www.mina-aoi.jp/kaigishitsu/>

運営：静岡県建築住宅まちづくりセンター



「民間制度リバースモーゲージ」の萌芽

— 住まいの年金化事業促進センター —

倉田 剛*

「日本人の平均寿命は女性86.83歳、男性80.50歳、ともに過去最高を更新している。しかし日常的な介護を必要とせず、自立した生活が続けられる健康寿命との間には10歳前後のギャップがあることも厚生労働省の調査で明らかだ。健康で快適な老後を過ごすためには経済的な自立も不可欠な条件である」。

上記は昨年の『建築静岡』秋号に掲載の「『空き家』のリバースモーゲージ」の書き出しの部分である。男女の平均寿命が84歳ならば、90歳を超える長寿者も存在する。その年齢層の多くは自立生活が難しくなり、様々な外部支援サービスが必要となり、その費用負担に備えなければならない。高齢者の家計調査によれば、「年収が300万円以下で貯蓄高も300万円以下」の世帯は4軒に1軒の割合であり、しかし、そのゾーンの世帯の持家率は6割強である。となると、高齢者の窮屈な家計に余裕を持たせる方法として、住んでいる持家（土地）の資産価値をそのまま生活資金に転換させる仕組み、すなわち「住まいの年金化システム」が合理的であることに説明は要しない。この種の公的制度やローン商品などはすでに存在するのだが、“高齢者世帯ならば誰でも容易に利用できる”といった仕組みではない。居住地や建物構造、あるいは家族構成や収入などの条件が狭隘で、地方の高齢者の利用は絶望的である。こうした現状を問題視して、筆者は声を挙げてきたが、好転する兆しはまったく見えない。ならば、「民間制度リバースモーゲージ制度*」を自ら実践してみようと一念発起して、「一般社団法人住まいの年金化事業促進センター」を設立し、今年4月から営業をスタートさせた。

当法人が扱う「住まいの年金化事業」は、社会福祉協議会や金融機関のリバースモーゲージ制度・商品と比べた場合、まず「不動産担保融資（ローン）ではない」点で大きく異なっている。当法人の場合、高齢者（利用者）が居住している住宅の経済的価値（市場評価額）や立地的価値（市場ニーズ）を調査し、多角的に吟味して、最適な不動産活用モデル（売買・賃貸・交換・他）を探り、具体化させて継続的に関わっていく。実務的には、金融機関、保険会社、宅建業者、一

般投資家、介護施設、法律専門家、後見人、自治体、裁判所等々と連携・調整しながら、高齢者個々の事情・条件を勘案した生活支援のためのビジネス・モデルを研究し事業化させる。その一例として、使わなくなった子供部屋を、学生向けに、賄い（食事）も付けてレンタルスペース（下宿）に転用する、敷地の余裕分を有料駐車場に転用する、住まいを売却してそのテナントになるセールリースバック等々、住まいの居住性能に収益性を付与させるコンバージョンを考えて段取り、継続的な運営を支援する。

最近の社会現象として、住んでいた家を離れて、サービス付き施設に入所（住み替え）する高齢者（夫婦）が増えている。そうしたケースでは、入所に伴う諸費用（入所時・毎月）の安定的確保と、空き家となった持家の管理なども考えなければならない。こうした空き家の管理、あるいは貸家（収益化）に転じたり、売却処分なども、やはり当法人が扱う年金化事業である。今年の『建築静岡』新年号に掲載した『パリ3区の遺産相続人』の中でも紹介しているフランスの終身年金契約「ピアジェ」は個人間で結ばれる不動産割賦売買契約（月賦売買契約）だが、自助的な老齢年金調達のスキームであり、「住まいの年金化事業」の範疇である。

いまひとつ、当法人の事業が他のリバースモーゲージ制度・商品と一線を画する特徴として、利用者の個人的な条件、また家族の事情などに配慮しながら、最後まで、“健康で文化的、かつ快適な暮らし”を維持できるように、後見人の選任や介護保険サービスの手配、また財産管理なども受託できる。また「協住型共同住宅（コハウジング）」の企画・建設・運営も事業のひとつであり、生活資金の調達だけに止まらず、生涯に亘ってトータルの生活支援を視野に入れている。とはいえ、こうした高齢者の生活支援にも重大なリスクが潜んでいる。そのひとつは対象者の加齢による判断能力・認知能力の衰耗である。その兆候の顕在化には個人差があるが、成年後見人の利用件数は着実に増加している。したがって当法人でも、利用者要件のひとつに任意後見人の選任をお願いしている。また認知症家族の自衛的な第三者損害賠償保険や所有者の人的条件に無関係な固定資産税負担等々にも、「住まいの年金化事業」は対応できる。

高齢者の住宅（土地）を担保にした長期生活資金貸付制度（商品）を「リバースモーゲージ・ローン」と括るならば、「住まいの年金化事業」は「ホームエクイティ・コンバージョン・システム（Home equity conversion system）」であり、「持家資産年金転換システム」と理解できる。この辺りについては拙著『持家資産の転換システム』を参照してほしい。

* 一級建築士・法政大学経営学博士・愛知工業大学経営情報科学博士
 住宅資産研究所・所長 NPOリバースモーゲージ推進機構・理事長

※ 拙著『居住福祉をデザインする』ミネルヴァ書房

住む人と建築士が協働して地域をつくる

地域貢献通信

No.26



「地域のお宝 次世代につなぐ」

平成28年3月5日(土)、島田市伊久美二俣の公会堂(旧伊久美銀行)と周辺地域を会場として、総勢77名の参加者を迎え開催されました。二俣は、大井川支流の伊久美川沿いの集落で、江戸末期から明治にかけて輸出茶で栄え、当時を偲ぶ民家や製茶施設が数多く残されており、静岡茶産業の歴史を語る上でも重要な地区です。

午前中は4班に分かれ、古民家や製茶工場、神社やお堂を巡る一周1.1km程のコースを、約2時間かけて散策。天候にも恵まれ、残された古民家の質の高さに驚くとともに早春の山里を堪能する里巡りの会となりました。

午後の公会堂での地域貢献発表会は、助成団体である「NPO法人 伊久美楽山舎」と「見付の長屋プロジェクト」による活動報告と、今後の展望や課題の発表および質疑の遣り取りがあり、続いて伊久美地区との交流を通じて地域づくりに参画している、東京農業大学生有志「ISF委員会」の活動紹介がありました。農大生の方々には午前中の里巡りのガイドも務めていただきました。最後に郷土史研究家の野村正美氏による、「伊久美ー静岡近代茶業のルーツ」と題する当地の茶産業にまつわる広範な研究成果を拝聴しました。

今回は、助成団体からの職人さんを含めた多くの人達とともに、若い大学生達の参加も得て、幅広い年代層や職域の厚い有意義な「集い」が実現しました。

まちづくり委員会 ■伊藤哲郎



●「里巡り」古民家見学。



●「里巡り」散策風景。



●発表会会場の二俣公会堂(旧伊久美銀行)。



●製茶工場内部/小屋組み。



●「NPO法人 伊久美楽山舎」の活動報告。



●「見付の長屋プロジェクト」の活動報告。



●東京農業大学「ISF委員会」のメンバー



●郷土史研究家/野村正美氏



先の誌上にて報告いたしましたが、平成 27 年 8 月 22 日（土）に西部ブロック青年企画委員会の事業として、一級建築士設計製図課題建物見学研修会を開催しました。対象は平成 27 年度一級建築士試験製図試験の受験者及び受験予定者（開催時は学科試験の結果が出ていないため。）とし、試験課題の建物見学研修会を行ったものです。

26 名の参加者があり、大変有意義な研修会となりましたことは既に報告しております。

そして、平成 27 年 12 月 17 日（木）一級建築士試験合格発表があり、その結果と共に事業の報告をさせていただきます。

まず平成 27 年度の一級建築士試験ですが、全国の結果を示します。

平成 27 年度（全国）			
学科	受験者	25,804	合格率
	合格者	4,806	18.6%
製図	受験者	9,308	合格率
	合格者	3,774	40.5%
総合 *全受験者	受験者	30,462	合格率
	合格者	3,774	12.4%
合格者平均年齢 32.4 歳			

合格率 12.4%。狭き門であることは間違いありません。皆さんの時代と比べいかがでしょうか？続いて静岡県の結果です。

平成 27 年度（静岡）			
学科	受験者	579	合格率
	合格者	104	18.0%
製図	受験者	210	合格率
	合格者	99	47.1%
総合 *全受験者	受験者	789	合格率
	合格者	99	12.5%

例年概ね 100 名ほどの一級建築士が静岡県で生まれます。合格率については全国平均と大きな差はありません。さらに、事業参加者の結果です。

平成 27 年度研修会参加者			
製図	参加者	26	合格率
	合格者	11	42.3%

26 名の参加者中 11 名の合格となりましたことを報告いたします。（内 1 名は三重県からの参加者）県内の受験者・合格者の 1 割強が事業参加者となりました。2 年目の事業として周知も進んでいることから（H26 度は 17 名の参加）、今後は合格者に占める割合も多くなることを期待しています。

合格率については製図試験の全国平均同等の 40% と顕著な結果がでているとは言えませんでした。試験課題により見学会による成果も変わってくるのではと思います。今年度の試験課題は「市街地に建つサービス付高齢者集合住宅」でした。見学場所は静岡市の有限会社まはえさんの「まはえ瀬名花壇」（<http://www.senakadan.jp/>）を見学させていただきました。課題の建物を見学できることは受験者にとっても貴重な体験となるかと思います。近年の製図試験では製図+記述とより確かな知識が求められるものになっており、その点についてもこの研修会意義は高いのではと思います。

しかし、本事業の目的は試験合格のみではなく、受験者や参加者への建築士会入会の機会を設けることでもあります。合格発表を踏まえ、合格した参加者へは合格お祝い状と入会案内・入会申込書を西部ブロック事務局より郵送いたしました。現状、参加者からの入会者は有りませんが、今後の入会への後押しとなることを期待しています。

ブロックの事業として 2 年目を迎え、当初より中部・東部の青年企画委員会とブロックの垣根を超えてきた事業ですが、来年度は 3 ブロックの合同事業として継続していく予定です。

この研修会は他県の活動報告よりヒントを得たものです。青年建築士フォーラムにて他県の活動報告を受ける中で、複数の県で一定の成果を上げており、一部の県では見学研修会→合格祝賀会→登録講習会と一連の流れを建築士会主動で開催し、入会増・会員の増強へと成果をあげています。

一級建築士のみならず、二級・木造建築士においても本県では建築士会が登録窓口となっています。将来的には資格取得から登録までの流れの中、建築士会をアピールし、入会を促すことで、新規会員の掘り起しに繋がるような活動にできればと思っています。左の表にあるように一級建築士の合格者平均年齢は 32.4 歳と正に青年年代といえます。比較的年代の近い会員が事業を行うことで新規の入会者を掘り起こす、正に青年企画委員会ならではの事業であると思います。

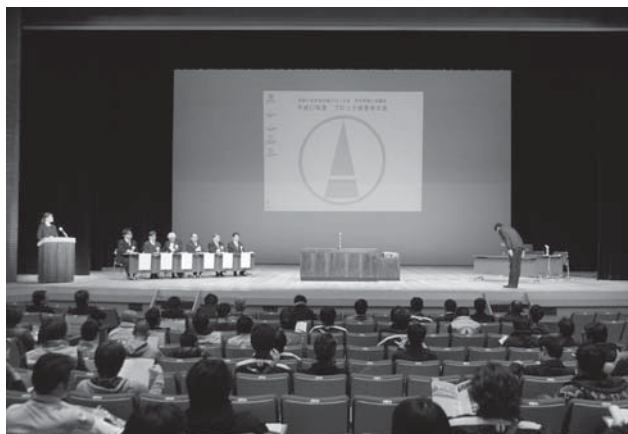
本事業は見学場所をいかに確保するかが毎年の課題でもあり、製図課題発表から見学研修会開催までの時間に余裕がないことが見学場所の選定を難しくする要因にもなっています。来年度の本事業についても会員の情報提供をお願いしながら、本事業の報告いたします。



平成28年2月21日・22日の二日間、東海北陸ブロック会（以下THB）青年協議会が主催となるブロック修善寺大会を修善寺総合会館にて開催しました。



各県を出迎えた様子



開会式の様子

このブロック大会というものは毎年、東海北陸7県の各県で幹事県を持ち回りしながら年度終わりの2月または3月頃に開催しています。元々は各県の事業報告を行う前期大会、交流メインの後期大会と二回に分けていたのですが、委員の負担が大きいため前期



伊豆市長による来賓挨拶

後期を集約した大会になりました。最近の大会では事業報告、研修、交流となかなか忙しいスケジュールになっています。事業報告を足早に行い、研修で体験学習などをし、懇親会を行い、次の日にはまちあるきなどの研修を企画していました。

自分が二年前に修善寺大会の実行委員長を依頼された時にTHBの良さって何だろうと考えました。私たち建築士はほとんどの人が同じ地域で仕事をし、同じ顔ぶれで仕事をしています。THBの良さとは太平洋側、日本海側、関西近県、関東近県の色々な文化の違う多種多様な県外の建築士と意見交換をすることによって、建築士として自分の中にあらたな「気付き」が生まれることだと思います。

そこで、今回の修善寺大会では事業報告と交流を中心とした、ワールドカフェ方式によるワークショップを行いました。



ワークショップ1回目 探り探りの様子



ワークショップ2回目 笑顔もでした

ワークショップはTHBより選出された、福井県・富山県・愛知県のテーブルの3事業×4箇所=12テーブルを設置し、参加者は全ての事業の内容を議論できる

ように3回ワークショップを行いました。1回目はお互いを探り探り始めていたので意見がうまく出ませんでした。徐々に打ち解け初めて2回、3回目はより深く、より積極的に意見交換をしていました。人によっては「時間が短い」という言葉を頂き、運営側としては嬉しい限りです。

夜は交流の場として懇親会を行いました。参加者の座席は各県を分散して配置しましたが、ワークショップの流れで直ぐに周りの人と会話が弾んでいました。



乾杯の様子



涙巻で悶絶(もんぜつ)の様子

余興として涙巻(わさび巻)の早食い競争を行いました。伊豆産のわさびで良い物は辛みが少なく、それで作ってしまうと美味しくなってしまいますので、辛みが多いものを何度か試作した上で余興の材料とさせて頂きました。涙巻は刺激こそ強いですが後を引かず楽しく余興を終えることが出来ました。

二日目はまちあるきを中心とした視察です。Aコースの修禅寺と座禅体験、Bコースの新井旅館見学、Cコースの修善寺史跡巡りと分けました。前日の雨が嘘のように晴れ渡り絶好のまちあるき日和となりました。

Aコースは修禅寺のご住職へ特別にお願いして一般公開をしていない庭園見せて頂き、その後、座禅体験をしてもらいました。参加者に感想を聞くとあっという間の25分だったようで良い集中が出来たそうで



修禅寺見学の様子



座禅体験の様子

最後に閉会式を行い、昨日のワークショップ最優秀事業の愛知県の「はがきでコンペ」を表彰しました。



次年度のブロックつるが大会の大会案内があってブロック修善寺大会が終了しました。

二年間この修善寺大会へ向けて準備をしてきました。実行委員・静岡県青年企画委員会の仲間の一人一人が居なかったら実現できませんでした。そして、大会をするにあたりアドバイスやご支援をくださった、静岡県建築士会佐藤会長、斉藤副会長、岡山副会長、飯尾副会長並びに本会、各ブロックの事務局の方々に心よりの感謝の意を表したいと思います。



早稲田奉仕園スコットホール（大正10年完成）



2016.03.06「歴史的建築物活用ネットワーク」会議

3日連続で歴史的建造物の活用を考える

3月6日（日）・7日（月）・8日（火）の3日間、歴史的建造物の活用を考える催しが、東京・大阪・東京で連続して開催された。

◆歴史的建築物活用の新しいルールづくり

6日は「歴史的建築物活用ネットワーク」（安藤邦廣、後藤治、西村幸夫3氏が共同代表）の第3回全国会議である。ヴォーリズ設計の早稲田スコットホールに約100名が集まり、歴史的建築物活用の新しいルールづくりについて話し合われた。

2013年10月の国家戦略特区により建築基準法適用除外の取り組みが促され、翌年4月1日に国交省から「新しい運用の仕組み」が示された。それは建基法3条適用除外について、「その他の条例」の制定、建築審査会に代わる専門委員会の設置を進め、歴史的建造物の活用を図ろうというものである。

その他条例の制定を検討している埼玉県川越市、富山県氷見市・射水市、兵庫県豊岡市、大分県臼杵市から報告があり、制定済みの福岡市と併せてディスカッションが行われた。日曜日にもかかわらず、行政の方々の参加により活発な議論があった。適用除外をするためには耐震、防火、避難の基準を用意しておく必要があること、めざすのは単体の歴史的建造物の保全活用であるが、そのためにはまちのビジョンや市として何を守りたいのかを明確にしておくことなどが共有された。

◆建築基準法適用除外を受ける方途

7日は日本建築士会連合会主催の「歴史的建造物の保全活用推進会議」であり、北は宮城県から南は鹿児島県まで、93名が参加した。審査会に代わる専門委員会をいち早く立ち上げた岡山県建築士会、その他条例の全国の模範となる京都市から先進事例として報告があり、なぜ適用除外か、なぜ専門委員会かなど、活発な質疑応答がなされた。

なぜ条例化してまで適用除外を受けることが有効なのか。たとえば耐震の規定により多額の補強費が

必要になる場合があるが、ソフト対応等により安全が確保されれば、その必要がなくなり工事費削減になり、所有者にとっても負担軽減になるのである。

◆文化庁が支援する歴史的建築物活用の取り組み

8日は、文化庁の「NPO等による文化財建造物の管理活用事業」のH27年度事業報告会であった。今年度6団体が採択を受けた。画家・青木繁の生家（千葉・館山）を改修・修繕し、地域活性化に取り組んでいるNPO安房文化遺産フォーラム。鎌倉・玉縄の重文古民家と歴史民俗資料館を拠点に、子育て世代を対象に衣食住の生活文化に視点を当てて活動している玉縄城址まちづくり会議。

阪神北地区の国登録文化財を手始めに、ヘリテージマネジャーHMがホームドクターとして活動できる仕組みを検討しているNPO阪神文化財建造物研究会。京都を中心に残したい建物を見守るシステムとして「見守るマネジャー」の確立をめざすNPO古材文化の会。この2つはHMの活動が仕事となる事例を示していると思われる。

尾道には空き家になった「茶園別荘建築」が数多く残されており、坂道で構成される条件不利地の場所でいかに保全活用が図れるか、尾道スタイルをめざすNPO尾道空き家再生プロジェクト。城下町松江で伝統的建造物の管理活用を、所有者たちとWSにより体制を構築しようとするNPOまつえ・まちづくり塾。これら2つは、歴史的建造物の空き家をいかに利活用するかという点で先進事例となりうる。

歴史的建造物をいかに活用していくかは、全国各地で取り組まれており、まさに時代の潮流になりつつある。そのための法制や税制など課題解決が急がれ、しくみづくりとネットワークづくりが求められていると思う。そこにHMの活躍の場があると思うのだ。

静岡県ヘリテージセンター長 塩見 寛（沼津地区）

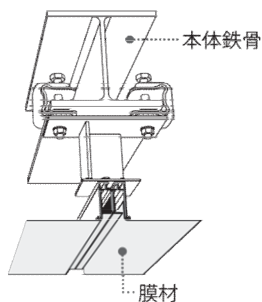
軽量で柔らかい、安全で快適膜天井

太陽工業株式会社

膜天井は、重くて硬い従来の天井に代わって「軽量、柔軟で丈夫な」膜材を使用した、新しい発想の安全な天井です。
特定天井の定義である吊天井に当たらず、教育施設をはじめ、駅・空港などのインフラ整備、公共施設や商業施設など様々な空間に安全と快適を提供しています。



2015 年 富士水泳場天井改修

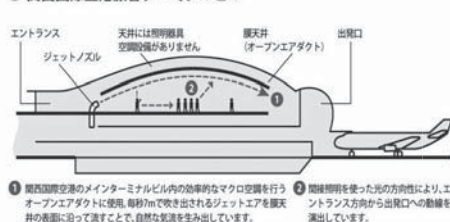


<膜天井納まり>

●デザインと安全性を両立する膜定着ディテール

● 大空間の効率的空調、照明の反射膜、屋根全体の軽量化等に効果を発揮しています。

● 関西国際空港旅客ターミナルビル



● 安全性

膜材料は約 600g/m²とたいへん**軽量**である為、天井面を構成する重量が 2 kg 以下とすることができ、まさかの落下時にも室内へ与えるダメージを最小限にとどめることができます。また、その**柔軟性**により、地震時の大きな揺れにも変形追従可能で、天井脱落の危険性を低減します。

● 既存改修への施工性

膜天井は上記にあるように材料が軽く柔軟な素材であるため、複雑な形状にも追従できる高い**施工性**を持っています。しかし、既存天井の改修においては天井を支える下地については制約が多く出るケースがあります。

古い構造体へ溶接し熱を入れてダメージを与えず、安全で設備等の干渉を避けながら柔軟に対応する納まりが必要となります。膜天井の軽さを活かしながら、地震発生時に取り扱いが脱落しない**施工性の高い納まり**を検証し、確立させています。

※左記ディテール参照

● 膜天井の持つ高い付加価値

膜材料の高い光反射率は、室内を広範囲に渡って明るくします。また、吸音性能を持つ膜材料を使用して、残響時間をコントロールできます。

厚さわずか 1 mm の膜材でも落下物をしっかりと受け止める強度を保持等、様々な室形状・天井形式・用途の施設で、改修工事前後の残響音測定を実施し、膜天井の見識を深めています。

■ 膜天井施工前後の残響時間の実測例

施設名: 倉敷市屋内水泳センター
室容積: 約 9,000m³ (25m×36m×10m)

膜天井施工前

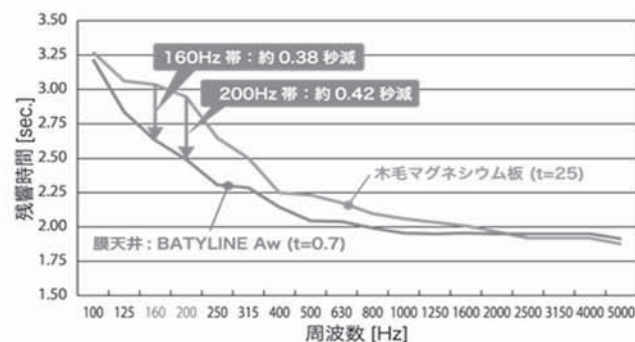


測定日: 2012年3月27日
温度: 31℃ 湿度: 50%

膜天井施工後



測定日: 2012年7月10日
温度: 32℃ 湿度: 74%



膜天井施工前後の残響時間の比較

建築静岡 春号 2016 Spring No.656

◆編集後記

今回の特集は『ヴォーリズと静岡県』。県内では中部で2件の設計が確認されていたのですが、2014年新たに2件の設計が明らかになった『驚き!』から特集を組ませて頂きました。ヴォーリズが設計した建物が東部で発見された嬉しさや、これからも増える可能性があることにロマンを感じる事も出来ました。ご協力頂きました「静岡建築遺産楽会」皆様本当に有難うございました。

編集長：広報情報委員会 長尾隆行

◆事務局からのお知らせ（重要）

会員の皆様には、日頃から静岡県建築士会の会務運営に付きまして、ご支援・ご協力を頂いておりますことを感謝申し上げます。

建築静岡 秋号（No.654）でご案内させて頂きましたが、平成28年1月よりマイナンバー制度がスタートしたことに伴い、「マイナンバーの提出」をお願いいたします。

平成28年1月から、建築士会から日当・報酬などのお支払いがありました会員様が提出の対象となりますので、事務局より、順次「マイナンバー（個人番号）のご提供のお願い」の通知を、郵送させて頂きます。

なお、当該通知は番号法施行規則第1条第1項第2号に基づく国税庁告示1による書面を活用した本人確認です。

ご確認の上、ご提出をお願いいたします。

◆お知らせ、その他

取材協力・素材提供

- ・三島スカイウォーク様
- ・静岡建築遺産楽会様
- ・日本福音ルーテル栄光教会焼津礼拝堂様
- ・YMCA東山荘様

ご協力感謝いたします。

◆ご意見募集

静岡県建築士会広報情報委員では、広報誌「建築静岡」をより有益な情報源とするためのご意見、ご提案を募集しています。お名前、ブロック名をご記入の上、下記あてにFAXでお願いします。なお、いただきましたご意見は非公開とし、個々のご意見への直接回答は控えさせていただきます、ご了承下さい。

公益社団法人 静岡県建築士会
広報誌意見募集係 FAX 054-273-0478

◆広報情報委員会

担当理事：寺田 尚稔（東部）

委員長：杉山 真一（中部）

副委員長：内山 孝（西部）

：鈴木 忠（東部）

委員：

（東部）高岡 直弘 ・ 三田 芳之

塩見 敏弘 ・ 長尾 隆行

（中部）小沼 勝也 ・ 星野 浩二

佐野 真浩

（西部）福田 光宏 ・ 志茂野昌歳

山口 知己 ・ 山下 英俊

編集長：長尾 隆行（2016 Spring）

発行所：公益社団法人静岡県建築士会

〒420-0857 静岡県葵区御幸町9番地の9

TEL 054-254-9381 FAX 054-273-0478

http://www.shizu-shikai.com

印刷所：（有）橋本印刷所

会員数 H28年3月31日現在

■正会員	1,298
■賛助会員	161
■合計	1,459

入会者

■正会員 6名

富士：古屋 貴代実 1級 S36.5 NEXCO中日本サービス㈱東京支社沼津東(出) 沼津市大岡517-4 鈴福ビル2F

中遠：金原 匡 2級 S59.10 有限会社 楽 磐田市大久保10-3 RAGUDESIGN/折々

浜松：松原 正和 1級 S57.3遠鉄建設株式会社 浜松市中区下池川町60番地の1

浜松：川崎 哲也 1級 S42.10株式会社ランドデザイン 浜松市中区住吉5丁目20-16 住吉ビル1階

浜松：田代 祥人 2級 S54.11新居設計 二級建築士事務所 湖西市新居町新居2841-3

浜松：前田 勉 1級 S47.11BLT設計 一級建築士事務所 浜松市中区肴町317-12 3F

物故者

■正会員 1名

沖 豊（静岡）

ご冥福をお祈り申し上げます。

退会者

■正会員 44名（物故者含む）

■賛助会員 1社

会員資格喪失による退会者

■正会員 12名

（公社）静岡県建築士会定款第10条の規定により、3月の開催理事会の承認を以って、平成28年3月31日付けで退会扱いとしました。

- ・鈴木 章 ・加藤 一利 ・勝又 裕次 ・松本 光久 ・佐野 高章
- ・杉村 佳秋 ・前島 安太郎 ・古山 恵一郎 ・鳥居 英晴
- ・後藤 直巳 ・小長谷 尚史 ・末川 智恵子

平成28年度 一級/二級/木造建築士定期講習 開催予定

平成25年度受講者の方は、今年度受講対象です。

第2期講習の開催案内は、4月下旬に静岡県建築士会HPに掲載いたします。

開催案内の受講申込受付期間をご確認いただき、お申し込みください。

第4期の詳細は、秋号でお知らせいたします。

	講習日	場 所	定 員
第2期	平成28年8月26日(金)	アクトシティ浜松	70名
	平成28年9月6日(火)	静岡労政会館	100名
	平成28年9月14日(水)	プラサ ヴェルデ	100名
第4期	平成29年2月中旬	未 定	
	平成29年2月下旬	未 定	
	平成29年3月初旬	未 定	

一般財団法人

静岡県建築住宅まちづくりセンター



資格の学校 **TAC**

一級建築士 受験対策講座

合格第一主義の**TACメソッド**によるわかりやすい講義と
まちづくりセンターの有資格技術専門職員によるフォローで
あなたを合格に導きます！



魅力的な受講料

随時入講受付中

資料請求 無料

講 座

【時間】

毎週 日曜日
10:00 ～ 16:00

【教室】

あんしん建物相談室“ミーナ葵”
静岡市葵区紺屋町 17-1 葵タワー 7F

概要・カリキュラム 等
詳しくはホームページで

静岡 まちせん 検索
<http://www.shizuoka-kjm.or.jp/>

通学が困難な方には！

自宅できる



Web 通信講座

講座事務局までお問い合わせください

TAC講座
事務局

一般財団法人

静岡県建築住宅まちづくりセンター 企画管理部 内

☎ **054-202-5576** 【受付】平日 9:00 ～ 17:00

◆CPD更新登録のお知らせ◆

CPDは毎年更新の登録が必要です。5月中旬にCPD更新登録料納入のご案内がお手元に届きます。内容をご確認の上、6月30日までに納入をお願いします。

なお、新規登録は随時承っております。詳細は本会事務局までお問い合わせ願います。 054-254-9381



静岡県立浜松工業高等学校

選手 5名 (監督 大井詳子 先生)

※新年号の訂正とお詫び

建築静岡新年号(No.653)の第6回高校生の「建築甲子園」静岡予選大会の記事の中で、浜松工業高等学校の皆様のご紹介を天竜高等学校と誤って記載していました。ここに訂正と関係各所の方々にご迷惑お掛けいたしました事お詫び申し上げます。正しい紹介を左記に掲載いたします。



大吊り橋



スカイウォークコーヒー



スカイガーデン内観



展望デッキ